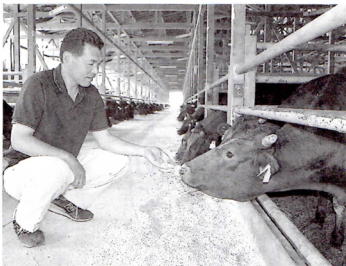


和牛、国産飼料100%育ち

天童の畜産業者、安心確保へ脱輸入穀物

国産原料100%のエサでの和牛飼育に、天童市の畜産会社「和農産」（矢野仁社長）が取り組んでいる。牛のエサの原料は海外産が多い。輸入トウモロコシなどの穀物にかえて、国産の飼料用米や大豆かすなどを使用する。地元のコメ農家の協力も得て、「安心できるエサで育てた肉牛を食卓に届けたい」という。

地元コメ農家と取り組み



飼育している和牛に国産100%の飼料を与える矢野仁社長＝天童市山口

「牛にも、どこでどうやってつくられたかが分かり、安心できるエサをあげたい。農家のみなさんの力が必要だ」と。和農産の矢野社長（53）が4日、飼料用

米を提供してくれる約20戸のコメ農家との集まりで呼びかけた。和農産は和牛約700頭を飼育する。矢野社長が国産飼料100%に挑戦しよ

ろと思ったのは、中国など

で食品に異物が混入する事件が相次いだことがきっかけだった。「海外産では、栽培や製造でどんな薬品が使われているのかも分からない」。注目したのが、国が生産拡大に力を入れている飼料用米だ。

飼料用米は、養豚や養鶏では利用が広がってつづいて、胃が四つあつて消化・吸収の過程が複雑な牛では、一度に与えすぎると肉質や乳の量に影響を及ぼすとされる。トウモロコシから代替できる量や与え方について研究が続いており、利用をためらう畜産農家が多かった。

和農産は昨夏から、6頭に限って出荷前の半年間、従来の配合飼料をやめ、飼料用米を含む国産100%の飼料をつくって与えた。コメは地元の農家や庄内地方の業者から購入し、栄養バランスが取れるように米ぬかや大麦などと合わせ

た。社員で知恵を出し合い、コメは加熱したり、蒸したり発酵させたりと工夫を重ね、飼料の4割まで使

飼料、課題は自給率アップ

日本は家畜飼料の原料の多くを輸入している。農林水産省によると、2013年度の飼料自給率は概算で26%。農水省は25年度に自給率を40%に上げることを目標に掲げ、飼料用米の生産拡大や、コメ農家と畜産

者との連携を促している。昨年の11月からは、試す牛を130頭増やしている。手応えはあるという。「実際に食べてみたら、脂っこくなくてうまみがある」と矢野社長。課題は十分な飼料用米の確保とコストの削減だ。

4日に契約を結んだコメ農家の飼料用米作付面積は約30㌫で、昨年の10倍になった。主食用米の米価が下がると、飼料用米にコメ農家の関心が集まっていることも追い風になった。

かさむ経費課題 ブランド化模索

国産飼料100%のエサ

農家の橋渡しにも取り組んでいる。輸入家畜飼料の主要原料であるトウモロコシなどの穀物は干ばつなどの影響を受けやすく、近年は中国なども輸入を増やしているため、国際価格は安定していない。

は、大麦や大豆かすの購入費用などがかさみ、「一般的な配合飼料より1頭あたり3万円ほど多く経費がかかると」（矢野社長）。そこで、矢野社長が目指すのが生産した肉のブランド化だ。今年4月には、国産飼料100%で生産した肉を「和の養」として商標登録した。5月には日本政策金融公庫山形支店から融資を受け、飼料の調整保管庫の建設に取りかかった。

矢野社長は「肉質のよさと安全性をアピールして高く売りたい。そうすれば、飼料用米を提供してくれる農家にもより高い支払いができる」と話している。